

テレビドキュメンタリー連続上映会

# 「水俣」、「原発」のテレビドキュメンタリーに見る戦後

— テレビドキュメンタリー・アーカイブからの問い —

第1回 2013.6.25(火)

第2回 2013.7.9(火)

時間

13:30~

場所

法政大学多摩キャンパス社会学部棟  
102教室

## 60年の記録と記憶が問う

テレビドキュメンタリー・アーカイブは、流れ去ったドキュメンタリー番組をよび戻し、時間の彼方に散在していた記録と記憶を、「いま、ここで、私たち」に召喚する。

延べ8時間超の「水俣」と「原発」をめぐるドキュメンタリー番組の連続上映で、3.11原発震災後に至るまでの戦後日本社会の何が見えてくるのか。それを、番組制作者たちとともに掘り起こす。「しなやかなテレビの手法」と評され、テレビによる調査報道の嚆矢をなしたドキュメンタリー番組『埋もれた報告』の制作者、大治浩之輔も再び語る。

この連続上映会は、アーカイブ研究の成果をメディア、ジャーナリズムの実践的教育のみならず、関連領域の研究と教育とも往還させようとする試みである。

### 番組を語る制作者

第1回 6月25日 水島宏明(法政大学社会学部教授)、山口智也(NHK)

第2回 7月9日 大治浩之輔(元NHK)

コーディネイター:小林直毅(法政大学社会学部教授)

### 多摩キャンパス

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

TEL:042-783-2091

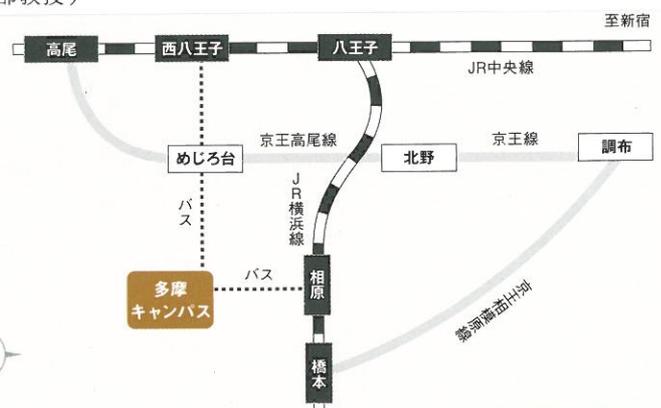
- 経済学部 ● 社会学部 ● 現代福祉学部
- スポーツ健康学部

#### 【京王線】

- 新宿駅から準特急で40分(急行で50分)、めじろ台駅下車、バスで約10分

#### 【JR線】

- 中央線:新宿駅から快速で54分(特別快速で42分)、西八王子駅下車、バスで約22分
  - 横浜線:新横浜駅から38分、相原駅下車、バスで約13分
- ※上記各バスで「法政大学」下車



事前予約不要 / 入場無料  
問合せ先: naokik@hosei.ac.jp

# 「水俣」、「原発」のテレビドキュメンタリーに見る戦後

—テレビドキュメンタリー・アーカイブからの問い—

## 上映番組と制作者トーク

## SCHEDULE

### 第1回 2013.6.25(火)

# 01

#### ドキュメンタリー番組上映1

- NHK『ネットワークでつくる放射能汚染地図～福島原発事故から2ヶ月～』  
2011年5月15日放送
- 日本テレビ『行くも地獄、戻るも地獄～倉澤治雄が見た原発ゴミ～』  
(「NNNドキュメント'12」)2012年3月12日放送

# 02

#### 制作者トーク1

- 水島宏明(法政大学社会学部教授『行くも地獄、戻るも地獄』制作者)

# 03

#### ドキュメンタリー番組上映2

- NHK『苦渋の決断～水俣病40年目の政治決着～』 (「ETV特集」)1995年10月19日放送
- NHK『不信の連鎖～水俣病は終わらない～』 (「NHKスペシャル」)2004年12月12日放送

# 04

#### 制作者トーク2

- 山口智也(NHKディレクター、『不信の連鎖』制作者)

### 第2回 2013.7.9(火)

# 01

#### ドキュメンタリー番組上映1

- NHK『奇病のかけに』(「日本の素顔」第99集) 1959年11月29日放送
- RKK(熊本放送)『111 奇病15年のいま』 1969年1月21日放送
- NHK『埋もれた報告～熊本県公文書の語る水俣病～』 1976年12月18日放送

# 02

#### 制作者トーク1

- 大治浩之輔(元NHK記者、『埋もれた報告』制作者)

# 03

#### ドキュメンタリー番組上映2

- NHK『ネットワークでつくる放射能汚染地図～海のホットスポットを追う～』  
(「ETV特集」)2011年11月27日放送
- NHK『小良(おら)ヶ浜ふたび～福島・原発の浜の漁師たち～』  
(「NHKスペシャル」)2013年5月1日放送

## 「水俣」、「原発」のテレビドキュメンタリーに見る戦後 ——テレビドキュメンタリー・アーカイブからの問い——

### 企画趣旨

戦後日本社会を特徴づける数多くの出来事は、さまざまなメディアによって経験され、記録されてきた。そして多くの人びとが、こうした出来事をメディアとのかかわりをつうじて記憶してきた。なかでもテレビは、映像を見ることによる出来事の実験を飛躍的に拡大した。その映像は、人びとがテレビを見ることで経験した出来事の記録となり、人びとにとっての戦後史の記憶を描き出し、再生し、検証することもまた可能にしている。

高度経済成長とよばれた経済発展は、人びとに何かしらの暮らしの「豊かさ」を感じさせようとする国策によって導かれた。しかし他方でそれは、公害事件、環境問題となって現れる、身体、生命、生活の危機をもたらす国策でもあった。そうしたなかで、テレビは暮らし「豊かさ」を実感させるメディアとして立ち現れながら、戦後日本社会の危機を映像によって描きつけてきた。その象徴的な出来事こそが、水俣病事件にほかならない。

「テレビ 60 年」の歴史のなかで、水俣病事件をめぐる幾多のテレビドキュメンタリーが放送されてきた。それらはテレビによる「水俣」の記録であり、人びとがテレビを見ることで経験してきた「水俣」の記憶を表象している。同時に、そこには、テレビが自らの拠って立つ戦後日本社会の在り様を描いた、テレビの自画像を見出すこともできる。

アーカイブは、流れ去ったドキュメンタリー番組をよび戻し、時間の彼方に散在する「いつか、どこかで、だれか」が見た「水俣」を、そして「原発」もまた、「いま、ここで、私たち」に召喚する。それは、テレビ研究や映像ジャーナリズム研究の成果を実践的教育と結びつけるだけでなく、関連諸領域の研究とも往還させる不可欠の資源になるだろう。

### 本上映会について

2009年8月に発足した法政大学サステナビリティ研究教育機構では、環境アーカイブズ・プロジェクトに取り組んできたが、同機構の閉鎖（2013年3月末）後も、環境アーカイブズ・プロジェクトは、大原社会問題研究所と特定課題研究所・サステナビリティ研究所に継承されている。環境アーカイブズ・プロジェクトの一つの柱として、「水俣」をめぐるテレビドキュメンタリー・アーカイブが構築されてきた。その間、2010年3月にスタートしたNHK アーカイブス学術利用トライアル研究（第1期、第2期）にも参加して研究成果を蓄積してきた。さらに、3.11 原発震災後には、原発問題をテーマ領域として加えて、ドキュメンタリー番組のアーカイブ化も推進している。そして、NHK アーカイブスとの連携によってドキュメンタリー番組の連続的視聴を可能にし、テレビ・アーカイブとしての水俣病事件を考える実験的授業 e-text が、本年秋学期に社会学部で始まる。

このように環境アーカイブズ・プロジェクトは、研究活動と有機的に結びついた大学教育の新たな段階を拓こうとしている。開催するテレビドキュメンタリー連続上映会は、その試みを紹介しながら、アーカイブ化された「水俣」、「原発」のテレビドキュメンタリーを見ることで、戦後日本社会の核心的問題に迫る視点を探ろうとするものである。

\*この上映会は科学研究費補助金基盤研究（A）「公共圏を基盤にしての持続可能な社会の形成」（研究代表者・船橋晴俊）の研究活動・研究成果の一部として実施する。

（小林直毅）